



会
報

東京出雲崎会

東京出雲崎会
会 長 鳥井 鍊太郎
発 行 津 山 忠 夫
責任者
〒275-0001 習志野市東習志野8-16-13
電 話 047-479-3561

平成17年度

第7号

1月吉日



心とむ麗しのひとときを素敵な貴方にプレゼント!



昨年度総会・懇親会風景く写真提供：高島弘氏 他>

東京出雲崎会 平成17年度「定時総会・懇親会」開催のご案内

◎日時…平成17年3月12日(土)

受付開始…午前11時より

開会…12時 閉会…午後3時30分

◎場所…錦糸町「ロッセプラザ」葵の間

(東京都墨田区錦糸4-6-1 電話03-3625-5101)

◎会費…合計12,000円

(年会費1,000円+総会費11,000円)

●お問い合わせは……電話047-479-3561【津山】



新年おめでとうございます

平成17年の年頭に当たり謹んでご挨拶申し上げます。会員の皆様方にはお揃いで輝かしい希望に満ちた新年を、お迎えになられたことと心からお慶び申し上げます。

昨年7月に、新潟県中越地方を襲った7・13集中豪雨は、ふるさと出雲崎にも大変大きな被害をもたらしました。東京出雲崎会といたしましても早速、町当局を通じまして被害者の方々に心ばかりのお見舞いをいたしました。加えまして、昨年10月には、またもや中越地方は未曾有の大激震に見舞われ甚大な被害を蒙り、被災された方々には心から御見舞い申し上げます。なお、会員の皆様とともに一日も早い復興をお祈りいたしております。

さて、東京出雲崎会もお陰様で年々隆盛となり、会員数も8百名になんなんとするまでになり、1千名の大会もいよいよ指呼の間に迫ってまいりました。これを機会に1人でも多くの会員の皆様方が総会・懇親会に足を運んでいただけるような環境作りと、内容の充実を図り、併せて本年も、ふるさと出雲崎との交流を、いろいろな場面を通じて更に深めてまいりたいと思っております。会員の皆様におかれましても、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますよう御願い申し上げます。 会 長 鳥井 鍊太郎

今年もやるぞ!
百聞は一見に如かず
イベント山盛り
おけさの国

東京出雲崎会より水害見舞金を贈る

東京出雲崎会の皆様におかれましては、常日頃出雲崎町に対して郷土愛に満ちたご指導ご鞭撻を賜り心から感謝申し上げます。

出雲崎町におきましては、昨年七月十三日の未明からの梅雨前線豪雨により大字中山地内で裏山崩壊により、一名の尊い命を失いました。また住家の全壊等数多くの災害に見舞われ、農林水産施設や公共土木施設等の被害額は三十億円弱と大災害となりました。

町は例年実施していましたがイベント等を取りやめ、災害復旧に全町をあげて頑張っております。

この様な中でこの度、東京出雲崎会の皆様から心のこもった温かいお見舞いをいただきました。本当に有り難うございました。町といたしましては皆様のお気持ちに添うべき有効かつ有意義に使わせていただく事と致しました。

この度のお見舞いに対し改めて感謝申し上げますと共に東京出雲崎会の益々のご発展を祈念申し上げます。御礼に代えさせていただきます。

▲水害で崩落した車道

出雲崎町長 小林 則幸



再び訪れた天災という名の脅威



大地震でひび割れた「井鼻地区」道路

七月の水害に続いて又しても十月に新潟県中越地震が出雲崎を襲いました。大被害を受けた震源地付近の市町村とは異なり大きな被害は有りませんでした。しかし道路に亀裂が入った所が五十箇所程、家屋の損壊は一部損壊は五十三棟が被害を受けております。もちろん地震の直後は電話不通（全町）停電（千五百世帯）水道断水（九百二十世帯）等、広範囲に渡る被害を被りました。けが（骨折）をした人一名と報告されています。（広報いずもぎき）より抜粋

（安田画伯）良寛と貞心尼初対面の図



“流水落花を止めず”の如く季節は移り変わり暮秋寒冷を覚える頃となりました。

貴会々員の皆様そして御関係の方々には愈々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

当記念館では今春改修事業を計画致しましたが、早々に御無心申し上げ恐縮している次第でございます。

改修工事に要する費用は平素考えられない金額で五千万円に達し驚くばかりでした。ここに町当局の絶大なるお計らいで二千万円の補助金交付が決定され、通知書を戴きました。有難いことでございます。

また皆様からご温情を賜った、勸募金は目標額に達し、関係者一同大きな支えを得て工事着工に向けて鋭意作業を進めているところでございます。

十一月には着工となり、三月中旬には工事が円成されることと信じております。お盆前の豪雨そして台風等に当館は被災せず安堵致しました。『知足の達人』と仰がれる良寛さまの御心が源流である出雲崎から世界に伝わり、自然の恵みを感じ、誰もが平等の意識に

良寛記念館改修寄金の御礼

立つて仲良く生き抜く智恵が育って行くことを願っております。

着工に際し、今日までのご高配に感謝申し上げますと共に今後のご指導を、よろしく御願い申し上げます。

平成十六年十月 理事長 高居寛阿

当記念館は改築工事の為、左記の通り休館致します。
平成十六年十一月十五日より
平成十七年三月二十日まで



（谷口吉郎博士設計）良寛記念館

喜寿Ⅱ「昭和さざなみ会」

同級生各位殿の御指導御協力に依り毎年開催の同級会も今年で第三十四回目とねり今回は東京方面四十七名の方に『喜寿祝い同級会』の案内状を出し全会員の返信を戴き直ちに欠けに拘わらず



『喜寿祝い同級会』に集う昭和さざなみ会の皆さん

全員に返信の電話をし近況の交換を致しまし。た。老年故体調不良ま配偶者の介護等で欠席者多数ですが万障繰合せて十九名の出席者が決まり早速に喜寿祝横断幕や特製記念品及び同級会名簿等も揃え亦会場では脚腰が楽な様に掘炬燵式宴席を準備し当日は華やかな諸兄弟の年よりぐんと若やいだ笑顔笑顔で宴席は盛上がり此処に小さな出雲崎会が出現し田舎弁で喜びの話題と献酬と演歌も出て長寿を祝いつつ盛大裡に来年の再会を約す。斯る回顧的集いは我々年代のノスタルジア許りで無く此れこそが明日へのホップ・ステ

ップ・ジャンプの原点で在ると或る心理学者も申し居ります。今後とも出来る限り楽しい東京出雲崎会へも亦昭和さざなみ会へも参加し諸氏の温顔に接して人生航路の最高の幸福感に浸かりたいものと期待して次第です。
(小林秀一 記)

古希Ⅱ「さざなみ会」

さざなみ会の古希の会は、二日間にわたって実施しました。一日目の十月十九日(火)は越後湯沢温泉で、二日目の二十日(水)は出雲崎でした。

湯沢東映ホテルでは、入浴後の大宴会。そして、全員がホテル内の二次会場(予約済)へ行き、歌に踊りにおしやべりに夢中となり、旧交をあたたため

『古希の会』に元気に集ったさざなみ会の皆さん



楽しい時を過ぎました。湯沢のみの参加者と別れを告げ出雲崎に向う連中はマイカーに分乗し、途中、開山堂の彫刻に感動したり

円福寺の庭園(苔寺)を風流に楽しみ永林寺にも参詣しました。昼食は、中魚沼郡川西町の小嶋屋総本店へ行き、そばを賞味し、出雲崎へ着きました。みよやでは、酒に料理に話にカラオケと早くからもりあがり、ときのたつのも忘れ、心ならずも萬歳の時間となり、みんな元気で再会することを誓い合い、散会しました。
(小林彦之 記)

還暦Ⅱ「紙ふうせん」

「オオー!」「ヤアー!」「マアー!」から「元気かね!」「元気だったかね!」そして「おめさん!変らんね!」それから「おめさん、誰だね?、誰だったかね?」で始まった。

出雲崎中学校第十三回卒業生(昭和三十五年三月卒)会名「紙ふうせん」の還暦同級会が平成十六年六月十六日祭の前日「みよや」で恩師の小学校の神林樹雄先生と中学校の永井等先生をお迎えして、県内外から五十七人が元気に出席。禅光照寺住職によるお祓と物語者への読経の後、浜に出て、六月にしては晴れて澄みきった空と海、そして弥彦山を背景に記念撮影を行いました。その後、幹事の進行で、先生から祝辞をいただき乾杯の音頭で祝宴に入りました。中には卒業以来初めて帰省した人、初めて同級会に出た人。久しぶりに幼なじみの顔を見て感慨ひとしお思い出話に花が咲き、出雲崎おけさ・太夫さん舞・校歌・応援歌等々、見て歌って、踊ってワイワイと「いやあ、



弥彦山を背に『還暦同級会』の記念撮影におさまる

十七年度はこちらの方々です

喜寿Ⅱ「辰巳会」

古希Ⅱ「はこの会」

還暦Ⅱ「出中十四会」

(昭和三十六年三月卒業の皆様)
六月十八日(土) 佐平次にて
還暦同級会を開催

「二七会」

昭和二十七年出雲崎中学校卒業生の集い「二七会」は、今年（十六年）、群馬県水上温泉「ひがきホテル」にて第二十九回目を開催しました。還暦も過ぎ、古希が目前ですが、毎年元氣な顔触れが参加してくれまう。会の運営は卒業年度の三クラス（A・B・C）が順番に当番幹事を担当し、東京と新潟の事務局と協力しあい会を盛り上げています。

今回はC組の担当、昨年（十五年）十二月より関係者が数回、新宿の喫茶店にて企画を練ってきました。今回は参加者が三十四人（男十八、女十六）と前年を若干下回ったのが残念でしたが、本人の体調や家庭の事情で参加できなかった人達もあり、止むを得ない事でした。今回も、恩師保田法慧先生が出席され昔話と人生訓を語っておられました。一次会では、幹事が知恵を絞ったピンゴゲームと須山さんの艶やかな踊りを楽しむ二次会では全員参加の力オケで久し振りに和氣藹々時の過つのを忘れまう。



水上温泉にて

翌日は、ゆつくり談笑組と観光組に分かれ、明年の再会を胸に解散となりました。（佐々木眞次 記）

「一二美会」

何かと多忙な日々を送っている中で、やはり級友の事が思い出され氣になります。

年に一回の集いを樂しみにし、気持ちだけはいつまでも学生時代のつもりでも、話題は足腰が痛むとか、葉が何種類に増えたとかで淋しい話になってしまひますが、お酒を酌み交わす内に話題も弾み、時間の経つのも忘れて二次会、三次会とお酒、話にと尽きる事なく延々と宴はつづく。



草津温泉にて

まだまだ四十代？ 欲張りかも：十六年五月、幹事さんのお陰で草津の一泊旅行で楽しい時を過ごし、心の励みになりました。年々、出席者は少なくなりつつありますが、これは自然のことです。

体が動く限りは参加し心身共に素敵なお兄さんお姉さんで：欲張りな願いかも？ しかし、次回の集いを心待ちにし、（）に、趣味にを目標にし、

夢を持ち、同級会に託して行きたいです。

何時も楽しくて、それで皆に元氣をプレゼントしてくれる「一二美会」にバンザイ

また来年（次回）も会おうね。

（金子照枝 記）

「東京やぶち会」

平成十六年三月二十八日（日）あきる野市にある「松永良さん邸（信州名代そば処松庵路）」にて美味しい蕎麦とおしゃべりの会：十八名の参加を得て盛會裡に開催されました。

当日は早くからお手伝いとして田村（名達）紀代江さん、佐藤（遠藤）美恵子さんが割烹着姿で応援をしていただき、更には松永さんはじめ家族の皆様（ご主人さん、お姉さん、ご子息ご夫婦）総出演で腕をふるっていただいて、正午過ぎから三時過ぎまで、閑静な住宅街の中でゆつくりのんびりと：過ぎました。

本年（十七年）十一月七日（日）神奈川県厚木飯山温泉「元湯旅館」へ「やぶち会」は集合です（伊藤勝 記）



そば処「松庵路」前にて

「三九サンキュー」会

昭和二十三・二十四年生まれのベビーブーム世代です。

三十六年、集中豪雨・第二室戸台風：自然の猛威の中をただただ逃げ惑ひました。

三十九年出中卒業

：桜ヶ丘の仲間達とそれぞれの道へお別れでした。



総会会場に揃った「三九会」の皆さん

東京オリピック：青空とジェット機の五輪マークが綺麗でした。

団魂の世代と呼ばれ、人多きが故の競争社会の中で過ごし、高度経済成長期の一翼を支え、バブル崩壊の激変も経験しました。

総会参加者は町議會議長高橋速円さんを入れ十二名、初参加が七名、出雲崎弁での楽しい一時でした。二次会はミ二同級会として、長谷川栄一、大平久美子さんも加わり大いに盛り上がりまう。

これからは、東京出雲崎会の若手？として、実力のカアチャン達と格好付けのトウチャン達で一翼を担いたいと思ひます。（東條玉英 記）

3町村合併、御破算!

出雲崎町は自主の道へ?

「良寛町」の新町名の命名までは順調に進んだかに見えた、出雲崎町・与板町・和島町の3町村合併は、その後の財政問題で各町村の思惑が絡み、合併協議会は暗礁に乗り上げた。各町村議会に持ち帰ったの検討後、昨年十月二十七日、第十四回町村合併法定協議会が出雲崎町中央公民館で開催し協議を進めたが解決策が出ず、合併協議会を終了することを決め解散した。

暗礁問題とは、与板町の江西地区住宅用地造成事業を合併前に着手する事の容認問題。和島村の三十億を大きく越える小学校統合建設問題。出雲崎町はこれらの施設や福祉・教育サービスは他町村と比べ高水準。合併で町の生き残りを賭けたが、か

えって財政負担を子孫に残す事になる。それぞれが合併による夢を胸算用で算盤を弾いたが計算が合わず御破算になった。

小林則幸町長は「行政のスリム化と財政組立ての検討を図り自立の道を歩みたい」と述べた町民からは「良寛の心を持ち、古くから誇りある出雲崎の名を残し、出雲崎ブランドを磨き高め、自立の道を」と又は「3町村で合併への議論継続、長岡市の出雲崎港としての合併、西山町や原発財源で恵まれている柏崎地区との合併」等々の考えや意見が出た。

算盤のように「御破算で願ひましては」と、新たな道が話し合いでないものか。(誠)

(資料「柏新時報」)

郷土より初の参議院議員誕生!

昨年の参議院議員新潟県選挙区で
有権者約四十三万人(票)の支持を受け当選!

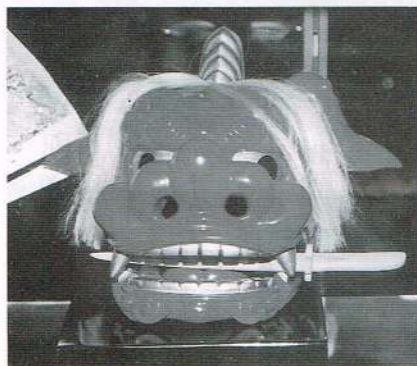


近藤正道氏(57歳)

- こんどうまさみちの経歴
- ☆鳴滝町鮮魚店「やまます」の次男
 - ☆最終学歴・中央大学法学部卒
 - ☆新潟市で弁護士活動
 - ☆新潟県議会議員、五期歴任
 - ☆家族構成、妻(尚代)、娘二人
 - ☆無所属

東京新潟県人会 第6回文化祭

昨年11月26日~28日
県人会館2階ホールで



▲吉水弘志氏 彫刻作品「獅子頭」



▲展示場風景の一部(力作が勢揃い)



▶内藤久吉氏 書作品
「江戸文字のいろいろ」

東京新潟県人会では毎年会員間の親睦の一環として文化祭を開催している。第6回文化祭は昨年十一月二十六日~二十八日まで、新潟県人会館で県人会常務理事兼文化祭実行委員長丸山保氏と県人会理事兼文化祭実行委員の佐藤憲一氏他の方々の基で開催された。展示物は絵画・写真・書・各種工芸全般。

出雲崎会からは内藤久吉氏の「書」一点、吉水弘志氏の「獅子頭の彫刻」一点、紙ふうせん写真部が写真三点を出品した。展示会場は昨年の中部地方の七月の風水害、十月の地震等の災害写真が多数展示された。

今年も十一月頃に第7回文化祭が開催予定です。皆様から多数の出品を期待します。

出品希望者は十月頃に左記へ問い合わせください。

電話047(353) 3790
丸山保宛

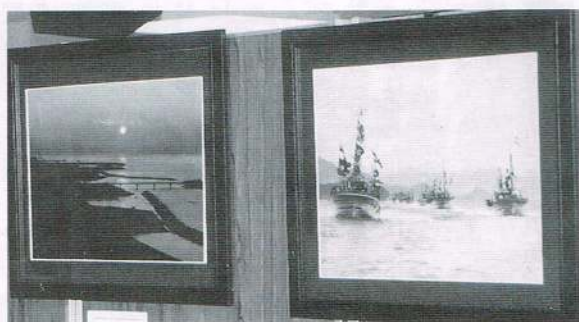
電話03(3651) 9517
佐藤憲一宛

義経伝説交流会

正月から始まったNHKテレビ、大河ドラマ「義経」放映にあたり、昨年十二月四日に出雲崎町中央公民館に於いて、「源義経伝説の地交流会」が開催されました。全国各地に義経伝説が多数ありますが、今回は、栃尾市と出雲崎町に残る義経伝説を確認しお互いの地域の歴史の理解を深める目的で開催されました。当日は、公民館で研修会を行った後、出雲崎で伝説の残る寺院を訪問しました。

(公民館だより)より

会員皆様の中に義経伝説を、お知りの方は、出雲崎会事務局内会報編集部までご投稿下さいます様御願ひ致します。



▲紙ふうせん写真部 撮影作品「ふる里の情景」

郷土訪問旅行記

文化委員長 山田次則

文化委員会では、平成十六年度の親睦企画として、東京新潟県人会が会員間の親睦を深める恒例の「郷土訪問旅行」を企画し、それに参加した。

日程は昨年九月十二～十四日の2泊3日。行程は東京→出雲崎→妙高高原→信州湯田中温泉の旅。内容は田中角栄記念館・出雲崎天領の里時代館・柏崎刈羽原子力発電所。小布施の里北斎館、岩松院等の見学と温泉。参加者は約90名。バス二台で。東京出雲崎会



「天領の里時代館」前にて記念撮影

からは鳥井会長以下9名が参加。

出発当日は好天に恵まれて、快適にバスは関越道、ふる里新潟県に向って走り出した。途中初秋の風景、ふる里

の実りや味覚が、満載した山・川・田・畑を見渡しながら一路バスは西山町へ。地元では俺が町の天下様、田中角栄の偉業をたたえての「田中角栄記念館」を見学（昨年9月の講談社より「田中角栄をとりこにした芸者」辻和子著「熱情」が出版された。角栄の別の面が見られるかも知れない、一読の価値あり）後、郷土出雲崎入りし、天領の里では時代館を見学。北前船・天領地で佐渡から金銀運搬で出雲崎町の全盛時代を再認識し、ふる里の味覚を十分に味わいながら楽しい思い出話に花を咲かせた後、佐渡ヶ島が右手に浮んだ美しい日本海を見ながら柏崎刈羽原子力発電所へと。これからのエネルギー資源は原子（電気）が中心になりそれに続くのは、太陽熱と風力。自然環境を保つ為には。見学後は今日の宿泊地柏崎「岬館」温泉に浸った後、夕日が沈む日本海の絶景を背景に懇親会が開催、懇親会には出雲崎から「秀和会」一行が出演し（佐渡おけさ）（出雲崎おけさ）「良寛さんや子供たち」が登場する演出が大受けて宴会場は大いに盛り上がった。翌日は小布施の里から浅間に、軽井沢。妙高高原、2日目の宿泊地の「湯田中温泉」へと。入浴後の懇親会では恒例の号車対抗戦で「出雲崎おけさ」を津山幹事長が謡い鳥井会長が先頭で出雲崎会参加者全員で踊り、トップ賞を受賞した。楽しい旅もアツ！と云う間に終わりました。

「健康の達人」台東区長より表彰

青山庄司さん《九十一歳》

九十一歳の青山さんはまるで若人の様に気力体力が充実し、元氣そのものです。今回の表彰を記念して、浅草ビューホテルにて六月九日大勢の友人が集まり受賞祝賀会を開催。青山さんの喜びのご挨拶と健康長寿の秘訣をご披露して頂きました。



お陰をもちまして、平成十六年四月二十一日台東区長より《健康の達人》として表彰を受けました。これもひとえに皆々様の心温かいご鞭撻によるものと、心から感謝申し上げます。

を五十年続けて、今日まで来ております。恩人の先生には専属になって頂き自宅で毎週マッサージを施して貰っています。現在は六十二kgです。身体も軽く、積極的に行動する事が出来て楽しい毎日を、娘の家族達と過ごしています。連れ合いを早くに亡くしましたが私の人生の幸せを感謝しています。「私の人生に悔い無し」。

写真は日課の柔軟体操（自宅にて）

《健康の秘訣》：私の実践：

- ・人間として正しく生きる
- ・先祖を尊び、両親に感謝の毎日
- ・毎朝午前五時に起床
- ・嘘をつかない「正直は一生の宝」
- ・「正直の頭に神宿る」
- ・苦難は天の試練
- ・朝に感謝、夜に感謝
- ・食事に好き嫌いをしない
- ・喜んで進んで働く
- ・家庭の円満。朝におはよう、夜におやすみなさいと挨拶をする
- ・知った事はやった事ではない。実践する事がやった事だ
- ・忍の一字
- ・継続は力なり
- ・血圧は一年中一三五―八五を保つ
- ・一日五千歩、歩く

ご紹介

ください！

東京出雲崎会では、只今、新会員を募集中です。皆様のお近くに出雲崎出身者がおられましたらご紹介下さい。特に三十代、五十代の方には参画頂きたく、皆様のご協力宜しくお願い致します。組織委員会

協賛金御礼



昨年度の総会時に当会へ真心の協賛金を多数の方々より頂戴致しました。心より厚く御礼を申し上げます。

お一人おひとりに御礼を述べざるべきですが、本紙面にて感謝の意をこめて以下の通りお名前を掲載させていただきます。

(順不同・敬称略)

佐藤恵美子・丸山保・竹田弘山後昌弘・坂井源吾・高島準司大矢一郎・青山庄司・赤羽弘平佐藤憲一・小林功吉・小黒孝一・千代田幸八・鳥井鍊太郎・川村敏夫・津山忠夫・寺村清一郎

ホームページ開設案浮上！

ふる里・出雲崎の紹介や当会の活動などを知っていただき多くの方々に参加していただければとの思いからホームページ開設が話題となっております。

平成十七年度の事業予定

- 2月5日(土) 役員会 定時総会役割分担
本年度活動方針 他 (ロッテプラザ)
- 3月12日(土) 17年度 定時総会・懇親会 (ロッテプラザ)
- 4月23日(土) 役員会 総会の結果と反省
新年度予算の審議
活動方針の審議
- 7月9日(土) 各委員会・役員会 行事参加と出費審議
諸行事報告と取りまとめ
来年度総会の打合せ
- 8月15日(月) 船まつり・花火大会 (未定)
- 8月16日(火) 出雲崎町成人式 (未定)
- 10月上旬 会報第8号・各委員会代表との合同会議
- 10月～11月中 会報発行準備及び原稿締め切り
- 11月12日(土) 役員会 来年度総会の件 会場案内状の件 (会報8号) 各行事参加報告
……………「新潟県人会関係」他 平成17年度……………
- 1月16日(土) 新春祝賀会 東京新潟県人会
- 3月6日(日) 新潟出雲崎会「総会」
- 5月21日(土) 東京新潟県人会「定時総会」
- 7月18日(日) 海の日 東京新潟県人会納涼大会
- 9月 ふる里訪問旅行会 — 東京新潟県人会

追悼抄

前常任相談役 小林和太郎氏

東京出雲崎会の前常任相談役として、当会に温かなご指導とご教示を頂戴していた小林和太郎氏が平成十六年十月五日八十六才で逝去されました。氏は大正七年三月八日に出雲崎で誕生され、東京都左官職組合連合会の第五代目会長を務め、社団法人日本左官業組合連合会副会長や全国左官タイル塗装業

国民健康保健組合常任理事、東左連交通安全部会初代部長などを歴任するなど、左官業界で活躍され昭和五十六年四月二十九日、多年左官工業に従事し、常に技術の向上に努めて、斯業の発展に尽力したとして黄綬褒章を受けられました。又、昭和六十三年四月二十九日には、雙光旭日章(勲五等)に叙せられておられます。東京出雲崎会にも温かな愛情をもってご尽力を賜りましたことに深く感謝申し上げます。もとに此処に謹んでお悔やみとご冥福をお祈り申し上げます。尚、会を代表してお通夜には鳥井会長が参列しました。合掌

歌壇俳壇

春隣 葉鴨地蔵に 水かけて
夕ぐれに 酒くみかわす 秋の夜
何となく 草の実飛ばす 待時間
縄跳の 一二三四五六七 秋の天
八十路きて 古きアルバム 見直せば
蛇崩の松 三本立てり

世は樂し 神の摂理に 恵まれて
住き人の輪の いずもぎき会

秀水 (小林秀二)

松美 (松本登美子)

津山 忠夫

石井 政克

金子 照枝

夢想子 (中川 栄吉)

年会費の納入にご協力を！

当会が定みなく運営されるのも、皆様からの年会費が大きな役割を果たしており、心より感謝申し上げます。又、今回の定時総会に都合で欠席される方々には、お手数をお掛けいたしますが、同封の郵便振替用紙にてお振込下さいますよう謹んでお願い申し上げます。会計委員会

「編集後記」

東京出雲崎会の編集部員になってから、はや二年目となりますが、普段の仕事でもまったく編集等には係わった事がなく右も左もわからずに、先輩方の話や仕事ぶりを見よう見まねで眺めながらここまでやって参りました。今までこの会報を発行する為に沢山の諸先輩方が携わって来たものと思われまふ。こうして自分が実際に携わって見ますと、いかに先人達がご苦労なさって来たのかが痛感させられます。昨年の出雲崎は七月の水害、十月の地震と自然災害が続き大変な年でした。その為、町の行事は全て中止となり会報も紙面の構成に苦労致しました。せめて今年は夏には夕日コンサートがあり、おけさ流しが町を練り歩き、灼熱の太陽のもとでの船まつり、そして夜空を焦がす花火が見られます様祈っております。(H・N)